

観天 望気

思いつきが世界を変える

来年開講するAFCJ日本農業経営大学校イノベーター養成アカデミーを記念して、未来を描くエッセイを募集した。テーマは80年後、つまり「22世紀の食や農業」。気候変動やフードテックなど農業や食をめぐる環境が大きく変わるなか、未来の食や農業はどうなっているのか、それを1200文字で書いてもらおうというものだ。

世界を変えるイノベーションは、思いがけないアイデアや思いつきから生まれる。そうした想いを込めて年齢不問、どなたでも応募可で呼びかけた。3カ月で集まったエッセイはおよそ700通。下は小学生から上は88歳の高齢者まで、地域も日本だけでなく海外からもたくさんの方が書いてくれ、予想以上の数が集まった。カプセル1個で十分な栄養がとれる完全食や、ロボットやAIがおこなう農作業、宇宙空間での農産物栽培など、ちよつと読んでみただけでも面白いアイデアでいっぱいだ。

申し訳ないが審査はこれからで、詳しい内容は書けない。しかし寄せられたエッセイからは、日本や世界の食や農業が抱える課題も浮かび上がる。年々激しくなる気候変動の一方で、増える世界人口や食料需要。そして私たち自身も、高齢化やストレスによって健康に大きな問題を抱えている。こうした課題を解決する人材を育てることは、日本だけでなく世界にとっても急務である。

日本ではスタートアップを育てる仕組みが遅れていると言われる。企業が人材を囲い込み、社員も一カ所に長く勤めるほうが有利だったためだ。しかしこうした流れもずいぶん変わっている。政府は副業を奨励し、企業も社員のチャレンジを後押しする。変化のスピードが速いなかで、従来のやり方では生き残れないからだ。我々の所に寄せられた700通近いエッセイは、食や農業の新たな可能性を示している。そうしたアイデアをビジネス化し、世界を変える。それが来年、イノベーター養成アカデミーを立ち上げる我々の責務だと思っている。



合瀬 宏毅

アグリフューチャージャパン 代表理事 理事長
日本農業経営大学校 校長

おおせ ひろき
1959年佐賀県生まれ。山口大学経済学部卒業。NHK入局後、経済番組のプロデューサーを務めたあと、「食料・第一次産業」を中心とする経済問題担当の解説委員。2020年4月アグリフューチャージャパン副理事長、22年4月より現職。過去に農政ジャーナリストの会会長、食料・農業・農村審議会委員などを務める。